（資料提供）
令和８年１１月２４日
戦略広報課　堀田
TEL：076-225-1229

令和６年能登半島地震アーカイブの新コンテンツ公開

標記の件について、新規コンテンツの追加及び公開資料を拡充しましたので、ぜひご覧ください。

１．復興に向けた取り組み【新規】

インフラの復旧、生業や住まいの再建などカテゴリ別に復旧・復興にどのように取り組んできたのかを、写真やグラフも活用し、分かりやすく時系列にまとめた１２の記事を公開します。

<主な内容（抜粋）>

・道路・農地の亀裂、斜面崩壊などの被害概要
・幹線道路の啓開、経営支援などの復旧・復興に向けた具体的な取組み
・他自治体からの職員派遣や民間システムの活用など関係団体からの様々な支援内容
・地震・豪雨の対応を踏まえた今後に活かす教訓　　など

カテゴリ	記事
インフラ等の復旧	①道路、②河川、③港湾、④都市公園
生業の再建	⑤商工業、⑥農業、⑦畜産業、⑧林業、⑨水産業
暮らしと住まいの再建	⑩災害廃棄物処理・公費解体、⑪災害ボランティア、⑫応急仮設住宅

<公開ページへの導線>

①　ＴＯＰページ上部の「お知らせ」欄をクリック
②　お知らせページ内の新着情報をクリック
③　復興へのあゆみページ内に掲載

アーカイブHP

２．公開資料の拡充

市町から提供を受けた被害状況の写真など約 17,500 点を追加公開

（公開点数が約 1.7 倍に拡充）

【R8.3 月】約 24,500 点　→　【R8.11 月】約 42,000 点
（+約 17,500 点）

インフラ等の復旧／道路編（抜粋）

各項目に関連する特記事項

能登半島地震における被害の概要

県管理道路では、斜面崩壊や盛土崩壊、亀裂・段差、液状化などの被害が発生し、最大42路線・87箇所（令和6年1月4日8:00時点）が通行止めとなり、発災直後は、能登へのアクセスルートが遮断され、奥能登全体が孤立状態となりました。

①斜面崩壊

強い揺れで山腹が不安定化し、斜面や切土法面が崩れて、崩土が道路を覆う被害で、能登半島地震では、外浦沿岸部などで多く発生しました。応急復旧として土砂撤去と簡易的な法面対策（ブルーシート養生、土のう積み、モルタル吹付等）を実施しました。

小規模なら数日で片側交互通行が可能ですが、大規模な斜面では安定確認に時間がかかり、数週間から数か月を要する場合があります。

大谷狼煙飯田

被害状況の写真



復旧・復興までの概要

具体的な取組みを時系列で整理

道路の復旧等については、次の3つのステップで取り組んでいます。



ステップ1
県・国・自衛隊の連携による幹線道路の啓開



ステップ2
大規模被害が発生した箇所等を除き応急復旧完了



ステップ3
創造的復興に向けた取り組み

ステップ1

県・国・自衛隊の連携による幹線道路の啓開

【道路啓開作業】

珠洲穴水線（珠洲市宝立町大町泥ノ木）



特記事項：国や自衛隊との連携はどのように始まったのか？

発災は夕方だったため、当日はほとんど状況がわからず、被災翌日にヘリ等で状況を確認しました。平成19年の能登半島地震も経験していましたが、今回は県だけでは手に負えないことがすぐに判明しました。

国の現地災害対策本部が直ちに県庁内に設置され、被災状況の把握と並行して、救助活動のため、国や自衛隊にご支援をいただき、応急対策が進められました。

県・国・自衛隊が連携して、作業場所が重複しないよう調節しながら、SOSを発信している地域へのアクセスルートの確保に注力しました。

道路啓開についての関係機関との打合せ



復興を支えた支援体制について

ヘリの空撮画像や360°車載カメラ映像の活用



ヘリによる空撮画像



車載カメラ映像

発災直後、連絡手段が限られる中では現地の状況が分からず、さまざまな方法で情報収集を行いました。

道路パトロール車による確認だけでなく、国土交通省によるヘリの空撮画像や民間提供の360°車載カメラ映像などが現場把握に大きく貢献しました。

令和6年能登半島地震-01 - 株式会社岩根研究所

今後に活かす教訓

長期的な視点に立った体制づくりや安全確保と作業スピードのバランスの大切さ

県庁では長期間にわたる24時間体制を敷く中、他部署からの応援を得て、職員が適切に休息を取れるように配慮しました。また復旧を急ぐ現場では、作業する人自身も被災者で無理ができなかったり、金沢などから通うため作業時間が限られたりする上、さらに余震も続き、二次災害を防ぐ必要もありました。安全を第一に作業を進めました。

執務室の散乱

